

メディアユニバーサルデザイン (MUD) ～すべての人にやさしいデザインを～

1 MUDとは

MUDとは、障がいの有無、年齢性別などに関わらず、すべての人が読みやすく、見やすく、使いやすいメディアデザインです。

2 なぜ、MUDが必要なのか

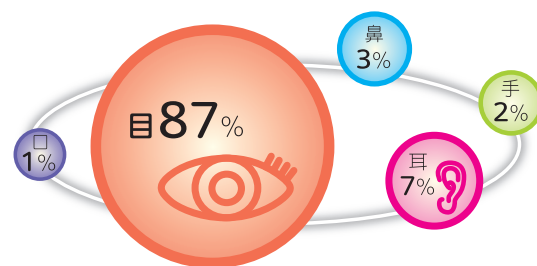
人は、情報の87%を視覚から得ると言われています。

このような情報社会において、現在の日本に色覚障がい者は約320万人いるともいわれており、男性の20人に1人、女性の500人に1人の割合で現れます。

また高齢化社会が進み、年齢による視力の衰えや白内障などで情報を得ずらくなってしまいう方も大勢います。

視覚障がいの無い人でも、文字が小さかったり、背景と文字が同系色で読みにくいと感じたり、子供や外国人の方に読めない場合もあります。そこで、すべての人にやさしいMUDが必要となります。

人が情報を受信する
器官の割合

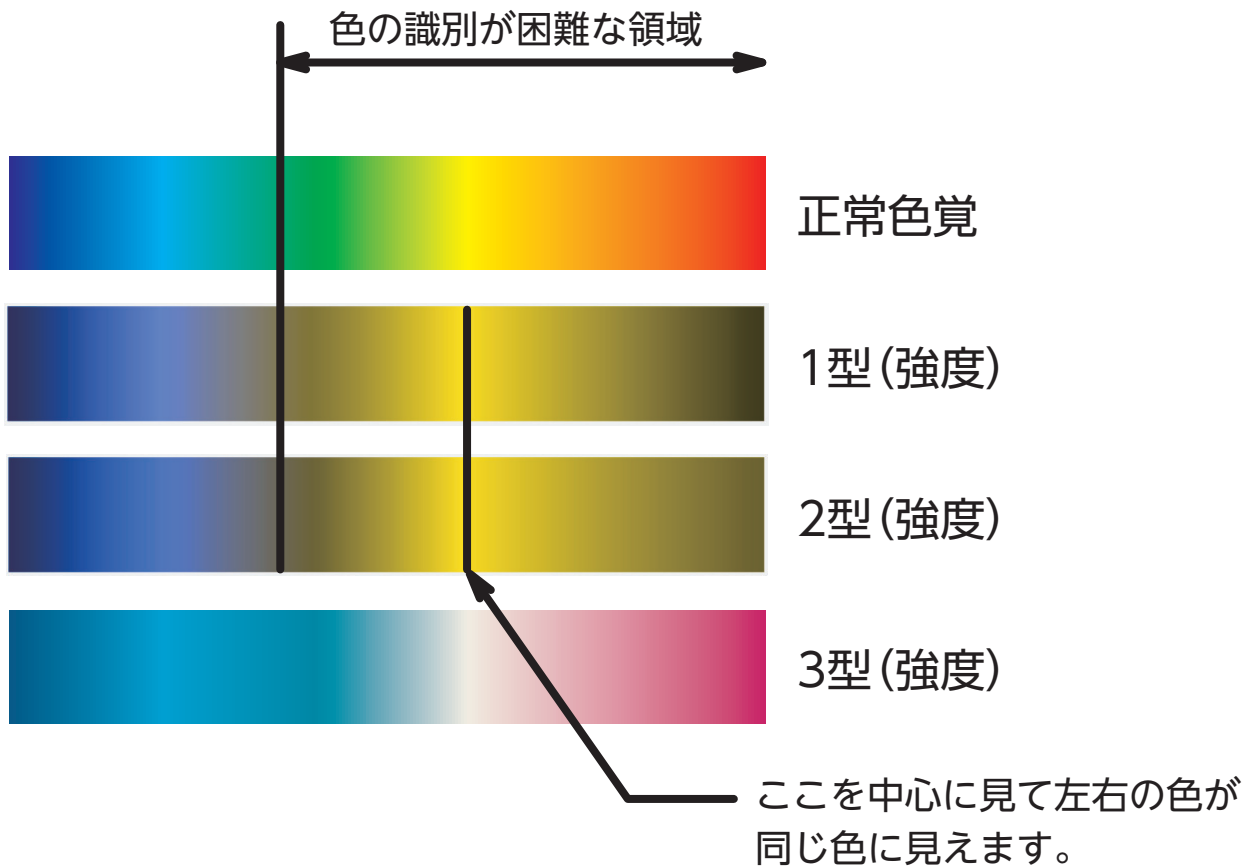


3 色覚障がいの種類

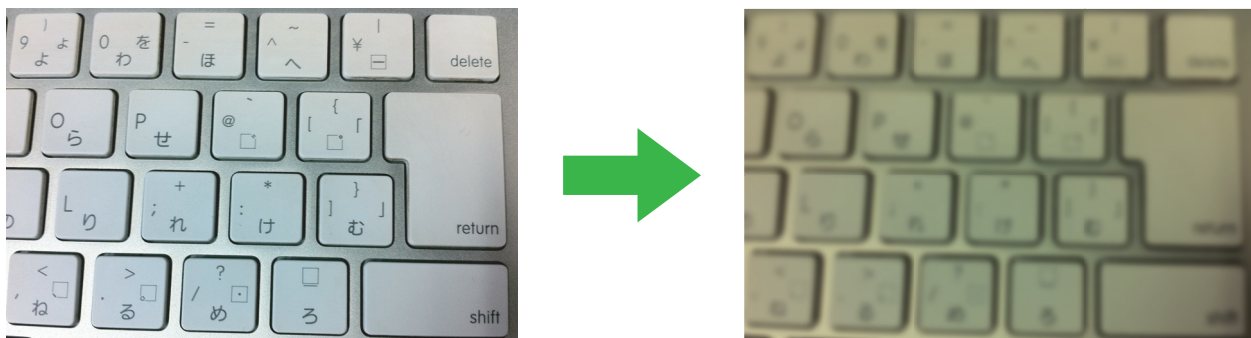
色覚障がいにはいくつかの種類があり、大きく分けて3種類あります。赤を感じる視細胞に問題があるものを1型といい、緑を感じる視細胞に問題があるものを2型といいます。この2種は赤から緑への色の差を感じにくく、見え方は近いものになります。色覚障がいのほとんどは1型、2型にあてはまり、まれに青を感じる視細胞に問題がある場合があり、これを3型といいます。

4 色々な見え方

①色覚障がい者の見え方



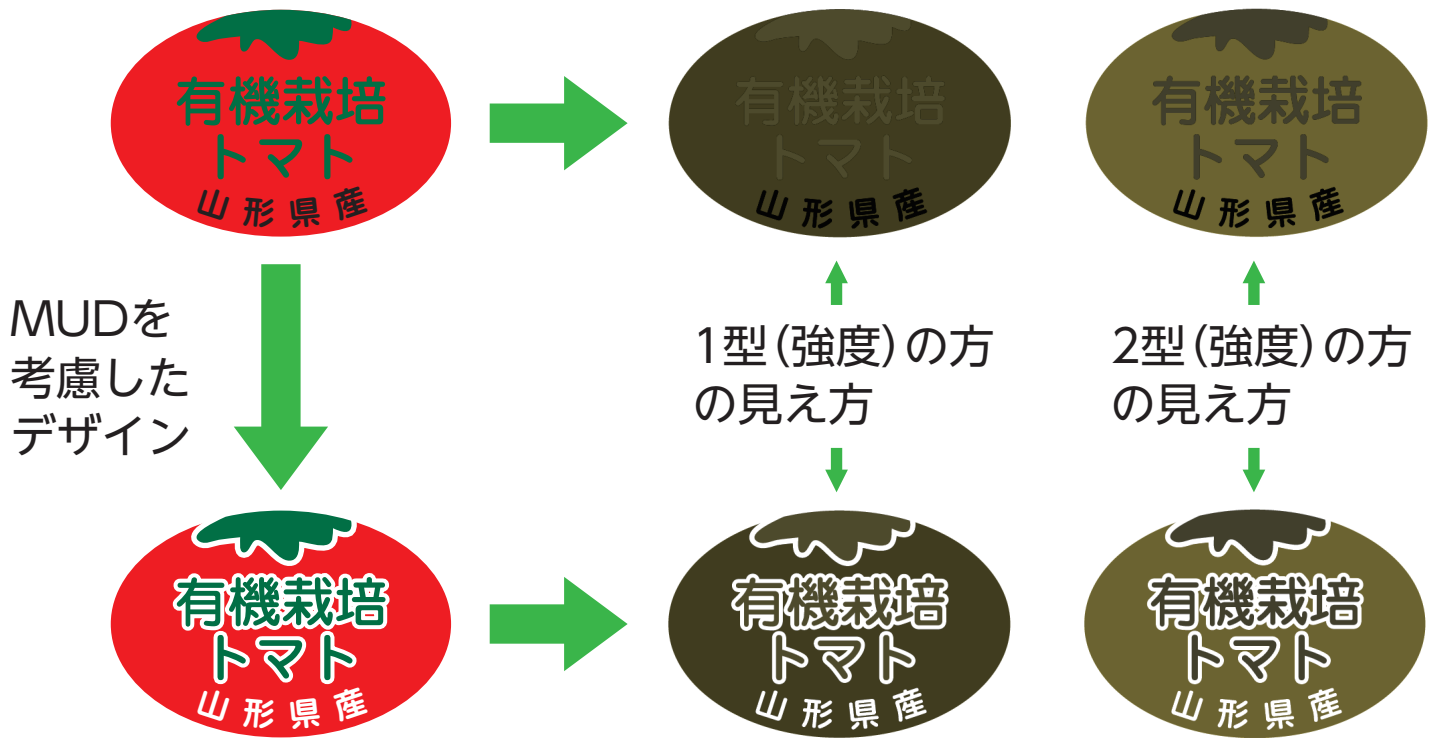
②白内障患者の見え方



個人差はありますが、40歳代から白内障になる人が増え、80歳～90歳代ではほとんどの人が白内障の症状が現れます。白内障は水晶体の濁りが原因で、症状として「目がかすむ」「明るい場所でものがみにくい」「ものが二重に見える」などがあります。

5 MUDの事例

①色覚障がい者へ配慮したデザイン



②白内障や視力が低下した人にも読みやすい文字

同じ文字でも大きさによって、可読性が異なり大きい方がすべての人が読みやすい文字になります。

フォントにも可読性のいいものがあり、線の太さが均等なゴシック体の方が明朝体より読みやすくなります。

また、同じフォントでも太すぎたりすると、画数の多い漢字などはぼやけて認識しづらくなってしまいます。

そこで、読みやすく、誤読されにくいを基本コンセプトとして、UDフォントが設計されました。


(1)明朝体とゴシック体の比較

	明朝体		ゴシック体	
原型	焦点ずれ	光量過多	原型	焦点ずれ 光量過多
開閉	開閉	開閉	開閉	開閉 開閉

(2) 違いがわかりにくい文字

69	69	→	* ディスレクシアの人は判別しにくい。
S38	S38	→	シルエットが似ているとわかりにくい。
OCG	OCG	→	
RB	RR	→	文字の一部が隠れていると誤読しやすい。

UDフォント
を使用



69	69	→	対称性を減らし認識しやすい
S38	S38	→	シルエットを変えて認識しやすい。
OCG	OCG	→	
RB	RR	→	文字の形を変えて認識しやすい。

*ディスレクシア…学習障害の一種で、知的能力及び一般的な理解能力などに特に異常がないにもかかわらず、文字の読み書き学習に著しい困難を抱える障害。失読症、難読症、識字障害、読字障害とも言われる。

6 MUDに関してフナミズ刃型製版でお手伝いできること

これらの事例はMUDの中でもごく一部の事例で、世の中にはMUDが考慮されていない視覚情報が無数にあります。

すべてのものが、すべての人にやさしいデザインになることは難しいかもしれませんが、ちょっとした工夫で読みやすく、見やすく、使いやすいデザインに変えることはできます。

そこで当社ではMUDを理解するために、MUD協会認定のMUDアドバイザーの資格をオペレーター全員が取得しました。

MUDを考慮したデザイン、版下作成でお困りのことがありましたら是非一度、ご相談ください。